

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

| | | | | | |
|-----------|--------------|--------------|------|-------------------|------|
| 評価対象事務事業名 | 生きがい活動支援通所事業 | | | 事業コード | 0419 |
| 担当課等 | 所属名 | 保健福祉部 高齢者支援室 | 担当係名 | | |
| | 課長名 | 渡邊 光市 | 担当者名 | 保健福祉部 高齢者支援室 玉山千春 | 電話番号 |

1. 事務事業の基本情報

| | | | | | | |
|--|---|-----------------|----------|------------------|-------------------------------------|----------|
| 総合計画体系 | 施策の柱 | いきいきとして安心できる暮らし | コード 1 | 施策 | 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実 | コード 4 |
| | 基本事業 | 高齢者福祉サービスの充実 | コード 2 | 関連予算 費目名 | 一般会計 3款 1項 3目 生きがい活動支援通所事業 (005-04) | |
| | 特記事項 | | | | | |
| 事業期間 | <input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度 | | | ⇒ (開始年度 平成12年度～) | | |
| 事務事業の概要 | 市内に住所を有する閉じこもりがちな65歳以上の介護保険対象外の高齢者に、2週間に1度デイサービスを提供する | | | | | |
| 根拠法令等 | 盛岡市生きがい活動支援通所事業実施要綱 | | | | | |
| この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか) | | | | | | |
| 平成12年度の介護保険制度開始に伴い、介護認定審査の結果、非該当と判定された高齢者に対するサービスとして開始された。 | | | | | | |
| この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか | | | | | | |
| 利用者の一部から、2週間に1度の利用回数をもう少し増やして欲しいという要望がある。 | | | | | | |
| 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか | | | | | | |
| 介護予防サービス事業だけでは対応が困難な引きこもり気味の高齢者を社会参加に導く事業としての期待が高まっている。 | | | | | | |

2. 事務事業の実施状況(Do)

| | | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|--------------------------|--|----|----|
| ①対象 (誰を、何を対象としているのか) | 概ね65歳以上の介護保険対象外の一人暮らし高齢者及び高齢者世帯 | ⇒ | ②対象指標 (対象の大きさを示す指標) | A. 65歳以上のひとり暮らし又は高齢者のみの世帯の人数(前年の高齢者名簿より) | 単位 | 人 |
| | | | | B. 要介護認定非該当者数 | 単位 | 人 |
| | | | | C. | 単位 | 人 |
| ③手段 (事務事業の内容、やり方、手順) | 22年度実績(22年度に行った主な活動) ・申請受付、承認、提供依頼 ・毎月の業務集計確認、委託料支出 ・委託事業者との契約事務 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 22年度に同じ | ⇒ | ④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標) | A. 利用者数 | 単位 | 人 |
| | | | | B. 延べ利用者数 | 単位 | 人 |
| | | | | C. 委託料支払実績 | 単位 | 千円 |
| ⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか) | 要介護認定非該当の状態、在宅生活を継続できる。 | ⇒ | ⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標) | A. 利用者の介護保険認定への移行数/利用者数 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】 | 単位 | 回 |
| | | | | B. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】 | 単位 | |
| | | | | C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】 | 単位 | |
| ⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか) | 日常生活を安心して不便なく送ることができる | ⇒ | ⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標) | 相談などを受けている高齢者数(単位:人) 介護予防事業参加者数(単位:人) 介護保険サービス利用者数(単位:人) | | |

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

| 区分 | 指標名 | 単位 | 20 年度実績 | 21 年度実績 | 22 年度計画 | 22 年度実績 | 23 年度計画 | 24 年度計画 | 目標年度 目標値 |
|-----------|---|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 対象 指標A | 65歳以上のひとり暮らし又は高齢者のみの世帯の人数(前年の 高齢者名簿より) | 人 | 24,524 | 25,567 | 26,000 | 27,074 | 27,500 | | 年度 |
| 対象 指標B | 要介護認定非該当者数 | 人 | 14 | 61 | 60 | 54 | 60 | | 年度 |
| 対象 指標C | | | | | | | | | 年度 |
| 活動 指標A | 利用者数 | 人 | 59 | 67 | 80 | 64 | 80 | | 年度 |
| 活動 指標B | 延べ利用者数 | 人 | 756 | 1,117 | 1,350 | 881 | 1,350 | | 年度 |
| 活動 指標C | 委託料支払実績 | 千円 | 5,107 | 5,715 | 6,122 | 4,512 | 5,747 | | 年度 |
| 成果 指標A | 利用者の介護保険認定への移行数/利用者数 | 回 | 0.10 | 0.07 | 0.10 | 0.22 | 0.20 | | 年度 |
| 成果 指標B | | | | | | | | | 年度 |
| 成果 指標C | | | | | | | | | 年度 |

⑩事務事業に係る事業費

| 区分 | 指標名 | 単位 | 20 年度実績 | 21 年度実績 | 22 年度計画 | 22 年度実績 | 23 年度計画 | 24 年度計画 | ***** |
|----------|--------------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 事業費 | A | 千円 | 5,107 | 5,715 | 6,122 | 4,512 | 5,747 | | ***** |
| 財源 内訳 | ④国 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑤県 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑥地方債 | 千円 | | | | | | | ***** |
| | ⑦一般財源 | 千円 | 4,612 | 5,165 | 5,480 | 4,092 | 5,285 | 0 | ***** |
| | ⑧その他 | 千円 | 495 | 550 | 642 | 420 | 462 | | ***** |
| | 合計(④~⑧)(=A) | 千円 | 5,107 | 5,715 | 6,122 | 4,512 | 5,747 | | ***** |
| | 延べ業務時間数 | 時間 | 850 | 750 | 750 | 750 | 750 | | ***** |
| | 職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む) | 千円 | 3,400 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 0 | ***** |
| | トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 8,507 | 8,715 | 9,122 | 7,512 | 8,747 | 0 | ***** |

3. 事務事業の評価(See)

| | | | |
|-------|---|--|---|
| 必要性評価 | ① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？ | <input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている | 理由: 要介護の状態にならないで在宅生活を続けることは、日常生活の安心に結びつく。 |
| | ② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？ | <input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である | ↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 虚弱な高齢者の介護予防の観点から、市が実施すべき事業である。 |
| | ③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでもいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？ | <input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である | ↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 介護保険制度を利用できない高齢者を対象にしており、妥当である。 |
| | ④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？ | <input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である | ↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 介護予防に絞った事業であり、妥当である。 |
| 有効性評価 | ⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？ | <input type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 向上余地がない | 理由: デイサービスの提供により、介護予防としての成果は認められる。また、加齢による身体能力の低下に伴う要介護認定への移行はやむを得ないものである。 |
| | ⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？ | <input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある | その内容: 虚弱な高齢者の介護予防等の在宅福祉サービスが低下する。 |
| | ⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？ | <input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない | 事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____ |
| 効率性評価 | ⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？ | <input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない | 理由: 事業費のほとんどは事業者への委託料となっており、開催回数の削減などサービス低下に結びつくため、削減できない。 |
| | ⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？ | <input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない | 理由: 年度当初の委託契約事務と毎月の実施報告処理・委託料支出に係る時間であり、削減はできない。 |
| 公平性評価 | ⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？ | <input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない | 理由: 介護保険制度を利用できない高齢者を対象にしており、妥当である。 |
| | ⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？ | <input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない | 理由: 利用者からは負担金を徴収している。 |

4. 事務事業の改革案(Plan)

| | |
|---------|---|
| 改革／改善方向 | ①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること ②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) |
|---------|---|

5. 課長意見

| | | |
|---|--|---|
| 一次評価 | (1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり | (2)全体総括(振り返り、反省点) 要介護状態への移行予防の取組みとして、必要性が高い事業である。高齢者が増加する中、要介護状態への移行を後らせる効果がある当該事業の重要性は高まるものと思われる。 |
| 今後の方向性と改革改善案 | (3)今後の事務の方向性(改革改善案) <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 </div> | | |
|  | | |
| 方向付けの理由と改革改善の内容 介護予防の効果が期待できるものであり、現状による事業継続が妥当である。 | | |